



日本触媒

株主のみなさまへ
第103期(中間)営業のご報告

平成26年4月1日 ~ 平成26年9月30日

株式会社 日本触媒

目次

企業理念・経営理念／社是	1
ごあいさつ	2
連結業績ハイライト	3
セグメント別概況(連結)	5
トピックス	7
連結財務諸表	8
日本触媒グループの状況	9
株式の状況 役員	10

長期ビジョン・目標：2025年のありたい姿

「人の暮らしに新たな価値を 提供する革進的[※]な化学会社」

- ・技術と創造力で、新しいことに挑戦し続けます
- ・No.1の製品や技術を増やし、グローバルに事業を行います
- ・最高水準の安全性と生産性を追求し続けます
- ・地球環境に貢献し続けます
- ・世界中の職場を多様性のある活気あふれる場にします

※革進：旧習・旧態を改めて、進歩を図ること(出典：大辞林)

(長期経営計画「新生日本触媒 2020」より)



当社は、「2025年のありたい姿」に至るまでの具体的な到達点「2020年のあるべき姿」の達成に向け、2014年度より長期経営計画「新生日本触媒 2020」をスタートさせました。「2025年のありたい姿」の実現に向けて、当社グループを挙げて取り組んでまいります。

企業理念・経営理念

日本触媒グループ 企業理念

TechnoAmenity

私たちはテクノロジーをもって
人と社会に豊かさと快適さを提供します

経営理念

人間性の尊重を基本とします
社会との共生、環境との調和を目指します
未来を拓く技術に挑戦します
世界を舞台に活動します

社是

「安全が生産に優先する」

ごあいさつ

株主のみなさまには、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第103期中間期（平成26年4月1日から平成26年9月30日）の事業の概況につきご報告申し上げます。

当中間期の概況

当中間期における世界経済は、アメリカでは景気が回復傾向にあり、欧州でも持ち直す一方で、中国については減速するなかで推移しました。

日本経済は、企業業績や雇用情勢の改善がみられるなど、緩やかな回復基調にあるものの、消費増税に伴う駆け込み需要の反動により、個人消費が低迷するなかで推移しました。

化学工業界におきましては、原料価格の高止まりが続き、依然として、厳しい事業環境のなかで推移しました。

このような状況のもと、当社グループの当中間期の売上高は、平成24年9月の姫路製造所における事故によって停止した全てのプラントの再稼働を本年2月に果たすとともに、顧客からの信頼回復にも努めた結果、販売数量を大幅に増加させ、さらには、原料価格の上昇に伴い販売価格の修正を行ったことなどにより、前年同期に比べて480億4千万円増収（36.6%）の1,792億9千万円となりました。

利益面につきましても、姫路製造所の生産を回復さ

せたことによる加工費の増加はあったものの、それに伴う販売数量の増加の効果が大きく、営業利益は、前年同期に比べて71億4千9百万円増益（228.9%）の102億7千1百万円となりました。

営業外損益は、受取配当金の増加はあったものの、為替差益の減少などにより、前年同期に比べて2億6千万円の減益となりました。その結果、経常利益は、前年同期に比べて68億8千9百万円増益（131.8%）の121億1千5百万円となりました。

特別損益は、姫路事故に関連した費用がなくなったことなどにより、前年同期に比べて3億9千8百万円の増益となりました。その結果、当期純利益は、前年同期に比べて42億1百万円増益（128.2%）の74億7千9百万円となりました。

配当金について

当期の中間配当金は、前期中間配当金8円に比べて3円増配の1株当たり11円といたしました。

これは年間配当金の半分の金額としては、過去最高値と同額となります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年12月

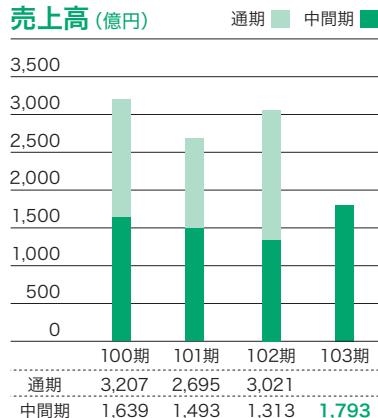
代表取締役社長

池田全徳

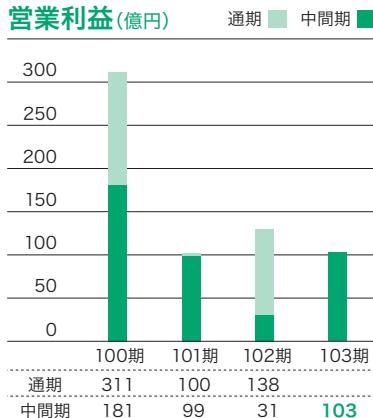
連結業績ハイライト

	第102期(中間)	第103期(中間)	前年同期比	(ご参考) 第102期(通期)
売上高	1,313億円	1,793億円	+36.6%	3,021億円
営業利益	31億円	103億円	+228.9%	138億円
当期純利益	33億円	75億円	+128.2%	105億円
ROA (総資産経常利益率)	2.9%	6.1%	+3.2ポイント	4.4%

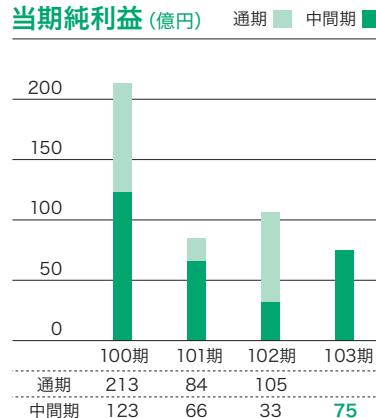
売上高 (億円)



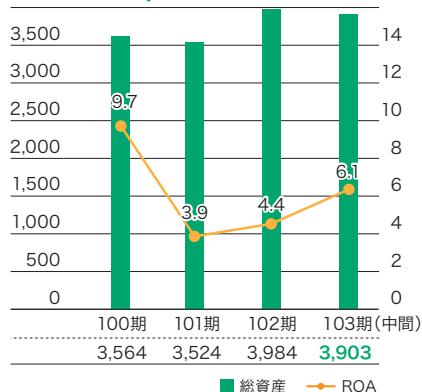
営業利益 (億円)



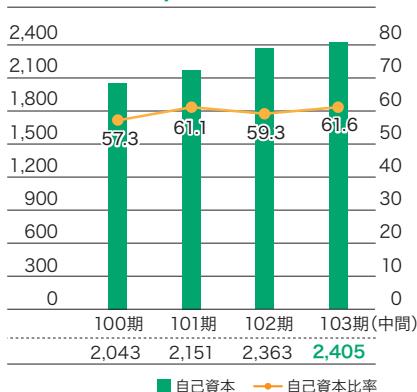
当期純利益 (億円)



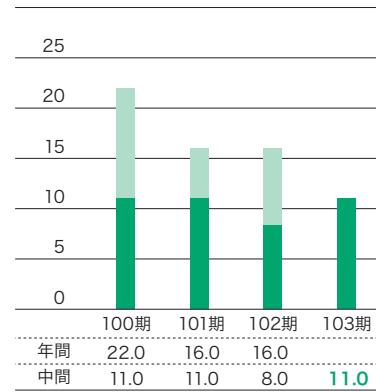
総資産 (億円)/ROA (%)



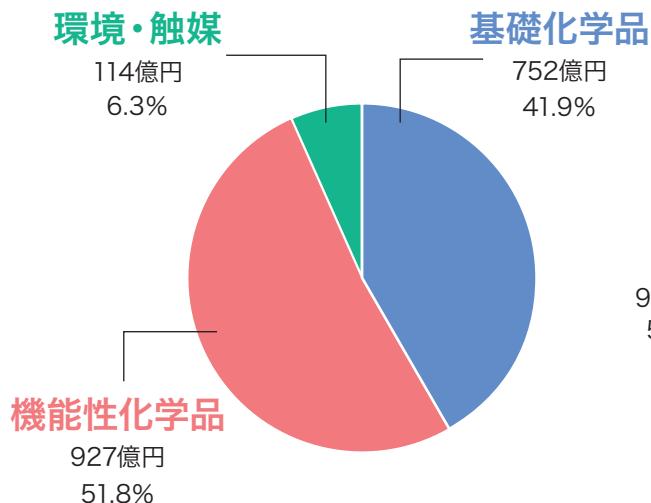
自己資本 (億円)/自己資本比率 (%)



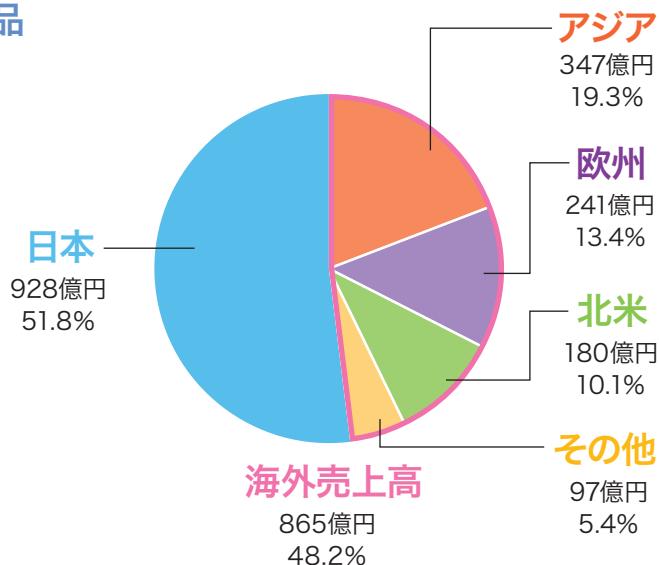
配当金推移 (円/株)



セグメント別売上高



地域別売上高



基礎化学品事業



ポリエステル繊維 (エチレングリコール)

【主要営業品目】

アクリル酸、アクリル酸エステル、酸化エチレン、エチレングリコール、エタノールアミン、高級アルコール、グリコールエーテル

機能性化学品事業

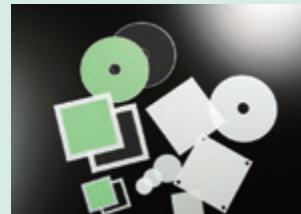


紙おむつ (高吸水性樹脂)

【主要営業品目】

高吸水性樹脂、医薬中間原料、コンクリート混和剤用ポリマー、電子情報材料、よう素、無水マレイン酸、粘接着剤・塗料用樹脂、樹脂成形品、粘着加工品

環境・触媒事業



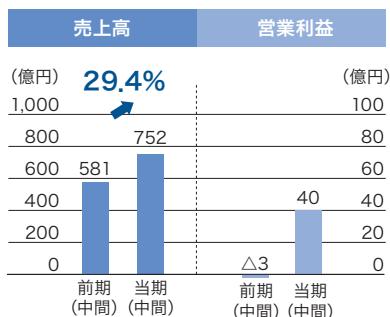
ジルコニアシート・セル (燃料電池材料)

【主要営業品目】

自動車触媒、脱硝触媒、ダイオキシン類分解触媒、プロセス触媒、排ガス処理触媒、燃料電池材料

セグメント別概況(連結)

基礎化学品事業



アクリル酸及びアクリル酸エステルは、姫路製造所を事故から復旧させたこと、及び姫路製造所で建設中であった新設備が今夏から稼働を開始したことにより販売数量を大幅に増加させ、さらには原料価格の上昇に伴い販売価格を修正したため、大幅な増収となりました。

酸化エチレン及び高級アルコールは、販売数量が増加したことに加え、原料価格の上昇に伴い販売価格を修正したため、増収となりました。

エタノールアミンは、販売数量は減少したものの、原料価格の上昇に伴い販売価格を修正したため、増収となりました。

エチレングリコールは、輸出を中心に販売数量が減少したため、減収と



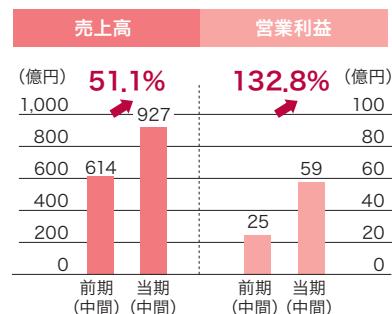
台所用洗剤(高級アルコール)

なりました。

以上の結果、基礎化学品事業の売上高は、前年同期に比べて29.4%増加の752億6百万円となりました。

営業利益は、再稼働を果たし、加工費の増加はあったものの、販売数量を大幅に増加させ、さらに前年同期には事故による生産量の減少を商品購入で補っていましたが、その必要がなくなったことによるスプレッド拡大などの結果、前年同期に比べて42億7千9百万円増加の39億5千9百万円となりました。

機能性化学品事業



高吸水性樹脂は、姫路製造所を事故から復旧させたことに加え、インドネシアにおいて新たに製造設備を平成25年10月から稼働させたことにより販売数量を大幅に伸ばし、大幅な増収となりました。

特殊エステル及び洗剤原料などの水溶性ポリマーは、姫路製造所を事故から復旧させ、販売数量を大幅に伸ばしたことにより、大幅な増収となりました。

無水マレイン酸、コンクリート混和剤用ポリマー、塗料用樹脂、エチレンイミン誘導品及び電子情報材料は、販売数量を伸ばしたことにより、増収となりました。

粘着加工品、樹脂改質剤及びよう素化合物は、販売数量が減少したため、

環境・触媒事業

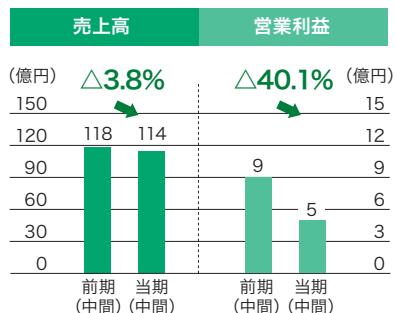


コンクリート混和剤用ポリマー（アクアロック®）

減収となりました。

以上の結果、機能的化学品事業の売上高は、前年同期に比べて51.1%増加の927億1千7百万円となりました。

営業利益は、生産を回復させたために加工費の増加はあったものの、姫路製造所のみならず、新設した高吸水性樹脂製造設備(インドネシア)での生産も寄与し、大幅に販売数量を増加させた効果が大きく、その結果、前年同期に比べて132.8%増加の58億5千3百万円となりました。



プロセス触媒、脱硝触媒、湿式酸化触媒及び燃料電池材料は、販売数量が減少したため、減収となりました。

自動車触媒、ダイオキシン類分解触媒及びリチウム電池用ポリマーは、販売数量が増加したことにより、増収となりました。



自動車触媒（ガソリン車・ディーゼル車）

以上の結果、環境・触媒事業の売上高は、前年同期に比べて3.8%減少の113億6千8百万円となりました。

営業利益は、販売数量の減少などにより、前年同期に比べて40.1%減少の5億2千5百万円となりました。

姫路科学館「科学の屋台村」に出展



2014年7月19日・20日に姫路科学館で開催された「科学の屋台村」に出展し、『ふしぎな粉「吸水性樹脂」』と題した実験を行いました。

初めて吸水性樹脂に触れる子供たちに化学の不思議さを体験してもらいました。

新規プラントの稼動と 今後の増設について

Topics
01

当社では、製品の需要の伸びに対応するため、プラントの増設を進めています。

川崎製造所では、約35億円を投資したアクリル酸特殊エステルプラント（2万トン/年）が完工し、2014年4月に商業生産を開始しました。

姫路製造所では、約110億円を投資したアクリル酸プラント（8万トン/年）が完工し、2014年7月に商業生産を開始しました。また、今回の増設に続いて、液晶ディスプレイに用いられる光学材料用アクリル樹脂「アクリピュア®」のプラント（3千トン/年、2016年4月完工予定）及び紙おむつに用いられる高吸水性樹脂プラント（5万トン/年、2016年6月完工予定）の増設を決定いたしました。なお、この高吸水性樹脂プラントについては、従来より生産性を向上させた最新技術を採用します。

当社は長期経営計画「新生日本触媒2020」の達成に向け、今後も積極的に設備投資を実行いたします。



アクリル酸プラント(8万トン/年)

「日本触媒の森」づくり活動

Topics
02

2008年より継続している「日本触媒の森」づくりは、今年度より3つの拠点で活動を行っています。

「日本触媒・水源の森」づくりでは、去る5月、8月、10月に兵庫県宍粟市にて森林整備活動・川の生物調査などを当社従業員、家族及び関係者で行いました。

また、昨年より、新たにスタートした「日本触媒・湯河原万葉の森」づくりでは、去る5月、8月、10月に神奈川県湯河原町にて下草刈りなどの森林整備活動を行いました。

「地球温暖化防止と日中友好の森」づくりでは、去る9月に中国・内モンゴル自治区にて砂漠化進行防止のための植林活動を当社従業員・OB及び関係者で行いました。

当社は、この活動を通じて、環境について自ら考え行動できる「人づくり」を目指します。



森林整備活動の様子(兵庫県宍粟市)



植林活動(中国・内モンゴル自治区)

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

前期 (H26.3.31現在)		当中間期 (H26.9.30現在)	
資産合計 398,396		資産合計 390,330	
流動資産 186,343	流動資産 180,469	流動負債 111,137	流動負債 96,492
有形固定資産 152,139	有形固定資産 147,715	固定負債 45,066	固定負債 48,808
無形固定資産 3,002	無形固定資産 2,840	株主資本 226,437	株主資本 232,301
投資その他の資産 56,912	投資その他の資産 59,307	その他の包括利益 9,837	その他の包括利益 8,212
固定資産 212,053	固定資産 209,862	少数株主持分 5,919	少数株主持分 4,518
負債・純資産 合計 398,396	負債・純資産 合計 390,330	負債 156,203	負債 145,300
		純資産 242,193	純資産 245,030

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 (H25.4.1から H25.9.30まで)	当中間期 (H26.4.1から H26.9.30まで)
売上高	131,286	179,290
売上原価	111,600	150,006
売上総利益	19,686	29,284
販売費及び一般管理費	16,564	19,013
営業利益	3,123	10,271
営業外収益	2,929	2,801
営業外費用	825	957
経常利益	5,226	12,115
特別利益	3,851	201
特別損失	4,474	426
税金等調整前当期純利益	4,603	11,890
法人税等	1,209	4,283
少数株主利益	116	128
純利益	3,278	7,479

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 (H25.4.1から H25.9.30まで)	当中間期 (H26.4.1から H26.9.30まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 309	13,850
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,996	△ 13,301
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,446	△ 5,006
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,478	△ 551
現金及び現金同等物の増減額	△ 4,381	△ 5,007
現金及び現金同等物の期首残高	47,801	39,619
現金及び現金同等物の期末残高	43,419	34,612

本営業のご報告中、記載金額（億円、百万円）は、表示単位未満を四捨五入しております。

株式の状況 (平成26年9月30日現在)

■発行可能株式総数 普通株式 636,000,000株

■発行済株式の総数 普通株式 204,000,000株

■株主数 11,914名

■大株主(上位10名)

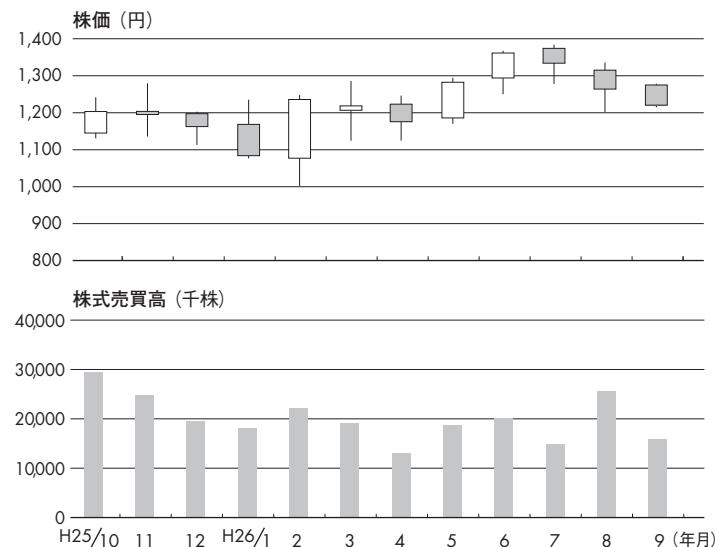
順位	株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
1	住友化学株式会社	19,484	9.60
2	JXホールディングス株式会社	10,645	5.24
3	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,338	5.09
4	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,000	4.43
5	株式会社りそな銀行	6,867	3.38
6	全国共済農業協同組合連合会	6,540	3.22
7	三洋化成工業株式会社	6,338	3.12
8	株式会社みずほ銀行	4,744	2.33
9	東洋インキSCホールディングス株式会社	4,522	2.22
10	ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン エスエルオムニバスアカウント	2,967	1.46

(注1) 上記のほか、当社が保有している自己株式が1,046千株あります。

(注2) 持株比率については、自己株式数を控除して算出しております。

(注3) 持株数及び持株比率については、表示単位未満を切り捨てております。

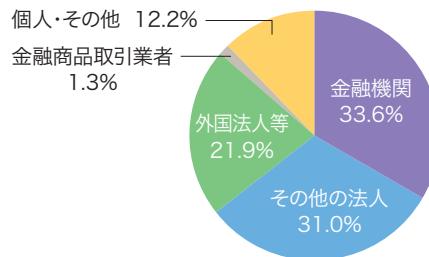
■株価・株式売買高の推移 (平成25年10月～平成26年9月)



役員 (平成26年9月30日現在)

代表取締役社長	池田全徳
取締役専務執行役員	尾方洋介
取締役専務執行役員	西居康仁
取締役専務執行役員	山本晴久
取締役常務執行役員	山本雅雄
取締役常務執行役員	高橋洋次郎
取締役(社外)	三浦孝一
取締役(社外)	酒井孝志
監査役	内田伸一
監査役	大西正一
監査役(社外)	荒尾幸三
監査役(社外)	大町章
常務執行役員	八谷秀孝
常務執行役員	山田浩一郎
執行役員	楽谷健二
執行役員	原田信幸
執行役員	初田卓己
執行役員	長砂欣也
執行役員	五嶋祐治朗
執行役員	吉田雅也
執行役員	荒川和清

■所有者別分布状況



■株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。なお、電子公告は当社のホームページに掲載して行います。

【お知らせ】

- (1) 株主様の住所変更、買取請求、配当金の口座振込のご指定その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行株式会社)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行株式会社)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き三菱UFJ信託銀行の全国本支店でお支払いいたします。

■会社の概要 (平成26年9月30日現在)

商号	株式会社日本触媒
(英文表示)	NIPPON SHOKUBAI CO., LTD.
設立年月日	昭和16年8月21日
資本金	25,038,413,238円
従業員数	4,103名(連結)/2,165名(単独)
本社	大阪本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号 (興銀ビル) (06)6223-9111(総務部)
	東京本社 〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目2番2号 (日比谷ダイビル) (03)3506-7475(東京総務部)

■ホームページのご案内

<http://www.shokubai.co.jp/>

日本触媒

検索

